

令和7年度 東京都内湾水生生物調査 5月鳥類調査 速報

●実施状況

令和7年5月13日に鳥類調査を実施した。調査当日は大潮で、干潮が11:17(15cm)、満潮は04:27(183cm)であった(気象庁のデータ)。各地点の概況を下表に示す。

	葛西人工渚(東なぎさ)	森ヶ崎の鼻	お台場海浜公園
調査時刻	13:18-14:25	10:32-11:21	8:40-10:00
調査時間(分)	67	49	80
天候	晴	晴	晴
気温(℃)	22.9	19.9	20.6
風向	南東	南東	北
風速(m/sec)	2.9	2.6	1.9
備考	到着時は潮位が低過ぎ、上陸まで約1時間待機した。調査開始時、干潟は沖合まで広く干出。	最干潮前から干潟は広く干出。干潟西側で浚渫作業、北側護岸で環境調査が行われていた。	公園側は人が多かった。

●主な出現種等

	葛西人工渚(東なぎさ) ※沖合含む	森ヶ崎の鼻	お台場海浜公園
数が多かった 鳥類上位3種	カワウ(514羽) ユリカモメ(145羽) ウミネコ、ダイサギ(33羽)	カワウ(18羽) キョウジョシギ(14羽) アオサギ(8羽)	カワウ(5905羽) キョウジョシギ(59羽) イソシギ(13羽)
備考	・ミヤコドリ、オオソリハシギ、コアジサシ等、重要種として12種を確認。 ・6種のシギ・チドリ類が確認され、干潟で採餌または休息していた。満ち潮時のため、三枚洲を飛び立ち飛翔する個体も見られた。 ・干潟でカワウとカモメ類が休息、サギ類は汀線付近で採餌していた。 ・浅瀬でスズガモが休息。 ・沖合の海上をコアジサシとアジサシが飛翔。ミサゴが杭の上で休息。	・シロチドリ、チュウシャクシギ、ミサゴ等、重要種として10種を確認。 ・シギ・チドリ類は6種で、ほとんどが護岸上か護岸沿いの狭い干潟で確認された。シロチドリは中央部の干潟で採餌していた。 ・干潟でカワウが休息。サギ類はアオサギが採餌と休息、コサギが採餌していた。カモメ類はユリカモメとウミネコが休息。 ・ミサゴが上空を飛翔。	・スズガモ、キョウジョシギ、イソシギ等、重要種として10種を確認。 ・第六台場と鳥の島でカワウが営巣中。巣数は第六台場322巣、鳥の島41巣で合計363巣。巣内に雛が見られたほか、営巣地や岩礁で幼鳥を多く確認。個体数は過去最多の5905羽。 ・サギ類はアオサギとダイサギ、コサギの3種で、営巣は確認されなかった。 ・シギ・チドリ類は5種で、主に鳥の島と、お台場海浜公園で確認された。 ・トビ12羽が上空を飛翔。

●出現種と個体数

No.	目	科	種名	令和7年 5月								重要種 選定基準			
				葛西人工渚(東なぎさ)			お台場海浜公園					文化財 保護法	種の*1 保存法	環境省*2 RL2020	東京都*3 RDB2023 (区部)
				範囲 内	沖合	合計	森ヶ崎の鼻	第六 台場	鳥の 島	公園 側	合計				
1	カモ	カモ	カルガモ	2		2			4		4				
2			スズガモ	10		10			1	1	2				留
3	チドリ	ミヤコドリ	ミヤコドリ	2		2									VU
4		チドリ	コチドリ				1		2		2				CR
5			シロチドリ				1							VU	CR
6		シギ	チュウシヤクシギ	13		13	6			8	8				VU
7			オオソリハシシギ	1		1								VU	EN
8			キョウジョシギ	13		13	14		35	24	59				VU
9			イソシギ	1	1	1	2	1	11	1	13				VU
10			キアシシギ	4		4	7	1	6	2	9				VU
11		カモメ	ユリカモメ	145		145	1								
12			ウミネコ	33		33	4		1		1				留
13			コアシサシ		1	1								VU	EN
14			アジサシ		30	30									
15	カツオドリ	ウ	カワウ	514		514	18	3624	2279	2	5905				
16	ペリカン	サギ	アオサギ	9		9	8	4	6	1	11				
17			ダイサギ	33		33		1			1				NT
18			コサギ	8		8	1	1			1				VU
19	タカ	ミサゴ	ミサゴ		1	1	1							NT	EN
20		タカ	トビ				1	7	5		12				NT
21	スズメ	セキレイ	ハクセキレイ				1	1		2	3				
計6目10科21種				14 種	3 種	21 種	14 種	8 種	10 種	8 種	21 種	0 種	0 種	4 種	15 種

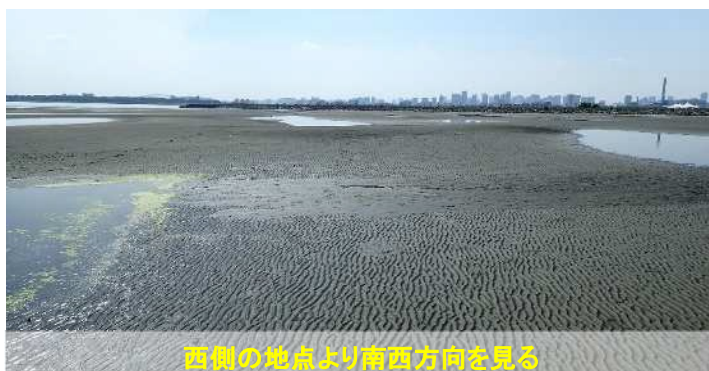
※種の分類・配列は「日本鳥類目録 改訂第8版」(日本鳥学会, 2024)に従った。

- *1 文化財保護法：特天=特別天然記念物
- *2 種の保存法：国際=国際希少野生動植物種、国内=国内希少野生動植物種
- *3 環境省レッドリスト2020：CR=絶滅危惧ⅠA類、EN=絶滅危惧ⅠB類、VU=絶滅危惧Ⅱ類、NT=準絶滅危惧、DD=情報不足
- *4 東京都レッドデータブック2023(区部)2023年版：CR=絶滅危惧ⅠA類、EN=絶滅危惧ⅠB類、VU=絶滅危惧Ⅱ類、NT=準絶滅危惧、DD=情報不足、留=留意種

<葛西人工渚(東なぎさ)>

○調査地点の状況

干潟は広く干出し、調査中に徐々に狭まってきた。



西側の地点より南西方向を見る



○出現種(シギ・チドリ類)

6種のシギ・チドリ類が干潟で確認された。満ち潮で三枚洲が狭まってきたため飛び立つ個体があり、キョウジョシギとチュウシャクシギは飛翔する群れが確認された。確認種はすべて東京都レッドデータブックに掲載されており、加えてオオソリハシシギが環境省レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類(VU)に指定されている。



ミヤコドリ



チュウシャクシギ



オオソリハシシギ



キョウジョシギ



イソシギ



キアシシギ

(ミヤコドリ、オオソリハシシギ、アジサシの画像は陽炎の影響でやや不鮮明となった)

○出現種(スズガモ)

岸付近で休息する10羽が確認された。本種は東京都レッドデータブックで留意種に指定されている。



○出現種(コアジサシ、アジサシ)

コアジサシ1羽とアジサシ30羽が沖合を飛翔するのが確認された。コアジサシは環境省レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類(VU)に、東京都レッドデータブックで絶滅危惧ⅠB類(EN)に指定されている。



アジサシ(矢印)

調査時間外に沖合で撮影

○干潟利用状況

干潟でカワウ、ユリカモメ、ウミネコの群れ休息していた。
汀線付近や水たまりでは、サギ類が採餌していた。沖合いの三枚洲にいたカモメ類は、飛び立って東なぎさに移動する個体や、外部に飛び去る個体が見られた。



ユリカモメとウミネコ(矢印)の群れ



休息するカワウの群れ

<森ヶ崎の鼻>

○調査地点の状況

最大干潮時刻で、干潟が広く干出していた。



○出現種(シギ・チドリ類)

6種のシギ・チドリ類が確認された。確認種はすべて東京都レッドデータブックに掲載されており、加えてシロチドリが環境省レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類(VU)に指定されている。



○出現種(ミサゴ)

干潟上空を飛翔した後、杭の上にとまって休息する1羽が確認された。本種は環境省レッドリストで準絶滅危惧(NT)、東京都レッドデータブックで絶滅危惧ⅠB類(EN)に指定されている。



○干潟利用状況

干潟を利用する鳥の個体数は少なく、カワウが休息していた他は、ユリカモメとウミネコが休息、アオサギが採餌と休息、コサギが採餌していた。シギ・チドリ類はほとんどの種が護岸沿いの狭い干潟を利用しており、中央部の広い干潟にいたのはシロチドリ1羽のみであった。



＜お台場海浜公園＞

○調査地点の状況

第六台場・鳥の島ではカワウの営巣が続いている。



○出現種(カワウ)

第六台場と鳥の島で営巣しており、合計 5905 羽が確認された。営巣数は第六台場で 322 巣、鳥の島で 41 巣、合計 363 巣であった。巣内には大きく育った雛が見られ、第六台場の護岸や樹林、鳥の島で幼鳥が確認された。



○出現種(サギ類)

アオサギ、ダイサギ、コサギの 3 種が確認されたが、いずれも営巣はしていなかった。東京都レッドデータブックでダイサギは準絶滅危惧 (NT)、コサギは絶滅危惧Ⅱ類 (VU) に指定されている。



○出現種(シギ・チドリ類)

第六台場と鳥の島、お台場海浜公園で 5 種のシギ・チドリ類が確認された。チュウシャクシギ 8 羽、キョウジョシギ 59 羽、イソシギ 13 羽、キアシシギ 9 羽など種数・個体数ともに多く見られた。



○出現種(カモ類)

鳥の島からお台場海浜公園でカルガモ 4 羽とスズガモ 2 羽が確認された。



○出現種(トビ)

第六台場から鳥の島で合計 12 羽が飛翔、休息していた。本種は東京都レッドデータブックで準絶滅危惧 (NT) に指定されている。



<その他>

砂町運河では構造物やその周辺でウミネコの成鳥 40 羽が確認され、そのうち 19 羽が営巢中と考えられた。巢はすべて構造物上にあった。巢内を直接確認することは出来なかったが、行動などから抱卵中と考えられる。ほかにカワウ 103 羽、キョウジョシギ 1 羽が確認された。



ウミネコが営巢する構造物



右向き 1 羽は抱卵中と考えられる

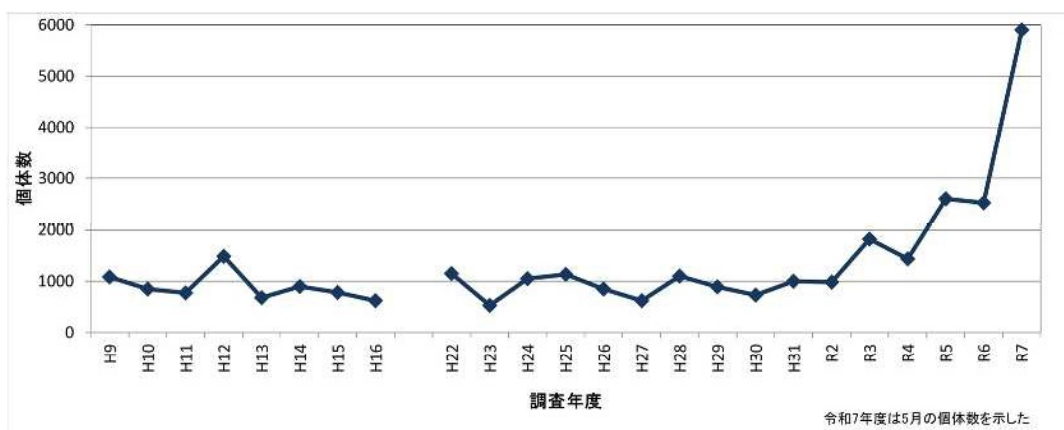


草の間に営巢している

<トピックス>

ーカワウの個体数増加ー

お台場海浜公園のカワウの個体数は令和 3 年度以降、増加傾向にあるが、令和 7 年度 5 月の調査では 5905 羽と過去最大の個体数が記録された。繁殖個体数の経年的な増加に加え、幼鳥が巣立つタイミングであったことも、多数の個体が確認された一因と考えられる。



お台場海浜公園のカワウの最大個体数の経年変化



鳥の島付近に着水するカワウの群れ